



急ピッチで造成中の県産木材供給センター用地

問 「森のゼロエミッション」
構想の実現

答 森と共に生きる
まちづくりを展開する



光風会代表
寄川 靖宏

問 「しそく森林王国」として、兵庫県の「森のゼロエミッション構想」の先験的・先導的な指定支援を受けて10年、

地道に啓蒙活動や研究が継続され、またその後時代の要請からも、今や市内外の有識者の間では共通認識や合意形成が出来つつあると思われま

この度の我が国の温暖化防止対策の一環であるCO2の削減に伴い、また環境保全や林業活性化の観点から、市はいよいよ積極的・現実的に事業展開すべき時期が到来していると考えられます。そこで市の「バイオスタウン構想」に基づいてお尋ねします。現在産業化されている事業の進捗

と支援状況。

建設中の木材供給センター

の展望。

農業や食品産業の研究開発と事業化への支援体制。

市長

各家庭から廃食油

を回収しバイオディー

ゼル燃料として利活用、木質バイオマス事業として小径木利用の丸太加工・オガライト・オガ炭製造等の取組み、国庫補助支援として「播磨木質バイオマス利用共同組合」の設備整備や製材くず粉砕機購入の手続き、製品価値を上げるためのエコモデル事業認定など。今後も民間事業者への助言と利用促進のために需要拡大を図りたい。本年はまほるばの湯に木質ペレットボイラーを導入し、また事業予定者に技術助言・アドバイザー斡旋・国県の政策制度情報の提供などを考えている。施設全体が循環型を目指すものであり、乾燥用に木くずを燃やすボイラーの導入を予定し、将来蒸気を利用した発電施設を

検討している。経営主体の兵庫

木材センターと協議し、観光施設

としても見学可能で、地域の

リーダーとして優良な企業となるよう助言したい。

家畜飼料化や堆肥化には一定

の品質や量の確保が必要で、現

実は事業化できていないが、補

助制度など情報提供し今後、資

源循環型社会の構築のため企業

や事業者と連携していきたい。

問

木材の売却益だけに頼る

林業経営からの脱却の一例

として、森林の炭素蓄積機能に

着目し、既に高知県などで実施

されている「オフセット・クレ

ジット（J・V E R）制度」を

研究し導入していく考えはない

でしょうか。

市長

「森と共に生きるま

ちづくり」の展開に向

けて、今後森林の整備や保全を

していく中で、先進地の事例も

研究し、積極的に調査検討し取

り組んでいきたい。